



「何歳までに～ができればいけない」

◎「何歳までに外国語の学習を始めたほうがよい」「何歳までに自転車に乗れるようになっていなければいけない」、或いは、「速く走れるようになるかどうかは、何歳までの生活スタイルで決まる」など、子供の成長のために「何歳までに～をしなければいけない」という情報があふれています。

◎すると大人は、これを成長のための「ノルマ」のように感じて、「〇〇歳なのに、まだできていない」と焦る気持ちが強くなり、子供に無理強いをさせたり、大きな負担をかけたりして、かえって逆効果になることも多いようです。

◎この「何歳までに」というのは、長年の研究、調査や様々なデータによる平均値や基準値です。でも、「平均的な子供」などいるのでしょうか。子供たちは全員、一人一人違う「個性」と「独自の育ち方」をもっています。「平均的な子供」などいません。育ち方が平均値や基準値通りにならないことも多いです。

◎大切なことは、平均値や基準値に近づこうと無理するのではなく、子供たち一人一人を「世界に一つだけの」かけがえのない存在ととらえ、これまでの成長過程、日々の生活、興味関心の様子から、子供の個性、独自の育ち方、発達の特徴を理解しようとすることです。

◎一人一人の子供の育ちの理解は、手探り状態になったり、試行錯誤を繰り返したり、或いは、誰かに相談しながらになるかもしれません。また、時には、その子なりの成長をじっと待つことがあるかもしれません。でも、子供たちのもつ可能性は計り知れません。「世界に一つだけ」の個性が「世界に一つだけの花」として咲くように、「世界で一つだけ」の育ちを応援したいです。



※「こころのお便り」は、情緒通級の現役教諭が原稿を書き、深大出版で編集しています。

子育てに悩む保護者の方、児童を理解したい先生等どなたでもプリントしてお使いいただけます。